



和泉フロントランナー

和泉から世界へ

車いすマラソン

西田宗城 選手

問：いずみアピール課 ☎99・8101

INTERVIEW

20歳で交通事故・・・

学生：事故後つらかった時どのように気持ちを切り替えましたか？

西田：下半身不随となりましたが、リハビリの先生の「できることを考えてやってみよう」という言葉で前向きになれました。

きっかけはテレビ（笑）

学生：なぜ車いすマラソンをしようと思った？

西田：実は、単純で・・・1年くらい何もしていないときに、たまたまテレビで車いすマラソンを見たことがきっかけなんです。

つまづくことも大事

学生：プロになってからは順調に進みましたか？

西田：勝てない、速くならない時期があり、辞めたいと思うことがありました。その際、視点を変えて、こぎ方、グローブの形状などの工夫を重ね、練習を続けることで光が見えました。つまづくことも大事、今はつまづくことも楽しんでます。

目標は東京パラリンピックでのメダル

学生：今の目標を教えてください。

西田：6つあるメジャーマラソンで表彰台に入ること。そして、2年後にある東京パラリンピックに出てメダルをとることです。

桃山学院大学では、経営実践、を学ぶために様々な活動をし、その一環として、和泉市在住の隠れた才能を紹介する「和泉フロントランナー」を企画し、市はその内容を広報いずみへ掲載することとしました。学生は記者の心得など、新聞社の講座を受け、テーマを「2020年東京パラリンピック」とし、調査・取材をスタートしました。今回は「2020年東京パラリンピック」をめぐり、和泉市在住の車いすマラソン「西田宗城」選手を特集します。

2020年東京パラリンピックへ...

車いすマラソンの魅力とは...

朴ゼミの学生たち



取材を終えて・・・

日本トップクラスの西田選手と話すことで、とても車いすマラソンに興味を持ちました。皆さんには、少しでも車いすマラソンについて知ってもらい、今後の西田さんの活躍にも注目してもらいたいですね！今回初めて取材をしましたが、取材から紙面作成のプランが甘かった分、何度も聞き直すなどの手間がかかってしまい、記者の仕事の難しさを痛感しました。

障がい者スポーツのひとつ。三輪車イスにのり、腕の力だけで走り抜ける過酷なスポーツ。距離はフルマラソンと同様の42.195kmで競う。（他の距離も有）「レーサー」と呼ぶ3輪タイプの競技用車いすを使用。平均速度は30km/hで、世界記録は1時間20分14秒。特徴は、ただ単にトップを走れば良いのではなく、前の選手の後ろを走ること風抵抗が少なくなり、前の選手に比べると約7割の力で走ることができる。疲れたふりをするなど、他の選手との駆け引きも魅力です！

PROFILE



自己ベスト：1時間20分28秒
（2017ボストンマラソン）

西田宗城 にしだひろき 33歳

1984年3月11日生。和泉市在住。バカラパシフィック株式会社に所属。幼少期から大学まで野球に打ち込むが、大学3年の時、交通事故により下半身不随になり、車いす生活を余儀なくされる。公務員として勤務したが退職し、車いすマラソンのプロに転身。